

8802 子供は、男の子がいいか女の子がいいか・・・

子供は、男の子がいいか女の子がいいかと訊くと、おおかたの親たちは「女の子のほうがいい」と答える。親たちに言わせると、「男の子は結婚でもしようものなら、滅多に顔も見せない。その点、女の子は結婚してもちょくちょく実家にやってきますからね。」

なかには娘に甘い親もいて結婚式の前に「なにか辛いことがあったらいつでも帰っておいで」と言ったりするらしい。

青木雨彦『よせばいいのに・・・』

[許容訳例]

To the question: "Which do you want to have, a son or a daughter?" most parents-to-be answer, "A daughter."

The reason, they say, is that once a son marries and leaves home he seldom shows his face again. But a daughter, even after she gets married, will regularly come back home.

Some parents, it seems, are indulgent enough to say to their daughters just before their weddings, "If things get intolerable, you can come home at any time you like."

[翻訳例]

Asked whether they would prefer a boy or a girl, most parents-to-be reply, "a girl." The reason, they explain, is that a son has only to get married, and he almost never shows his face at home again. A girl is different here: even after marriage, she's always coming home to see her parents.

Some parents, apparently, are so prejudiced in their daughters' favour that just before their weddings they urge them to come back home any time things get a bit tough.

■子供は、男の子がいいか女の子がいいかと訊くと、おおかたの親たちは「女の子のほうがいい」と答える。(8802)

★「子供は、男の子と女の子とどちらがいいか」ですが、このような質問はどのような状況でなされるものでしょうか。多くの場合は、これから結婚して子供を持つ人になされると思います。となると、まだ「親」(parents)ではなく「親予備軍」(parent-to-be)です。そのような「親予備軍」に対して「子供は男の子がいいか女の子がいいか」と訊ねることは、とりもなおさず「息子がいいか娘がいいか」ということですから「男の子」は「息子」と、「女の子」は「娘」と言い換えることもできます。直接話法で訳すと"Which do you want to have, a son [boy] or a daughter [girl]?"ですが、英語には、日本文のように直接話法の文を地の文に入れることはできないので、次の「訊ねられる」と組合せて間接話法にして Asked whether they would prefer (their child to be) a boy [son] or a girl [daughter] することになります。

★「訊くと」は「訊ねると」ということですが、「訊ねると」にすると、訊ねる発言主体を主語として出さなければならなくなります。ところが、ここでは発言主体があとの方にも示されていないので、むしろ発言主体をかくすように心がけることになります。それで「訊ねられると、おおかたの親たちは」とするか、あるいは「・・・という質問に対して、親たちは・・・」と処理することになります。したがって、受動態で Asked…とするか、あるいは To the question: … most ~ answer…と能動態にするか、一般人称を使って If one asks them whether…とするかになります。

★「おおかたの親」は most parents ですが、このような質問は、多くの場合、これから結婚して子供を持つ人になされると思います。となると、まだ「親」ではなく「親予備軍」です。英語はこういう所にも神経を使わなければなりません。したがって、英語では most parents-to-be とします。

★「女の子のほうがいい」は引用符に入れられていますから、直接話法にするなら、単に "A girl [daughter]." です、間接話法では I'd prefer a girl [daughter]. です。

★「・・・と答える」は answer とか reply などです。

■親たちに言わせると、「男の子は結婚でもしようものなら、滅多に顔も見せない。(8802)★「親たちに言わせると・・・ということだ」は「親たちによると、その理由は・・・である」と考えて The reason, according to them, is…とするか、「親たちが言う理由は・・・である」として The reason, they say [explain], is…くらいです。それから give the reason (理由を説明する) を使って They give the reason for this, saying…も考えることが出来ますが、saying という現在分詞を使うと、そのあとの部分が追加的な感じになって、前の部分に比べて情報の比重が軽くなってしまいます。たとえば、He went to Paris, living there for many years and working in a hotel. という場合、あくまでも「彼はパリへ行った」ということが中心になり、以下のことは追加的な情報になります。とこが、ここは「彼らによるとその理由は・・・」ということで、あくまで the reason が中心になっているわけですから The reason…にしなければならないのです。なお、辞書には「私に言わせると」に in my opinion とか if you ask me などが出ていますが、The reason, in their opinion, …は使えません。ここは意見の問題ではなく、あくまで、自分の気持ち、好みを言うわけだからです。それから When asked the reason, they say…なら使えます。

★「男の子は結婚でもしようものなら」は「でも」と「しようものなら」というニュアンスを出すのは非常に難しいです。まずは「ひとたび・・・すると、・・・だ」と考えればいいのではないかと思いますが、このままでは「結婚したこと」と「顔を見せないこと」が論理的に結びつきません。したがって「結婚して家を出ると」と加えて once a son marries and leaves home とするか、あるいは、「でも」には「結婚した場合だけでなく」というニュアンスが込められていると思われる所以、ちょっと無理してでも入れるとすると「男の子は結婚しさえすればそれでよくて…」と考えて a son has only(, say; for example,) to get married and…とするといいでしよう。

★「滅多に顔も見せない」は *he seldom shows his face again* とか *he will seldom turn up again* とか、あるいは *he almost never shows his face at home again* など。他に *he seldom makes appearance at home* などとも言えます。

■その点、女の子は結婚してもちょくちょく実家にやってきますからね。」(8802)

★「その点」は、次の「女の子は」の「は」にはストレスが掛かっていると思われるので「しかし」(but)ということなので *But a girl*…ですが、ちょっと弱い感じがします。「一方」(on the other hand)にして *A girl, on the other hand, …* もいいです。他に「その点」(in this [that] respect)を生かすなら *In this respect a girl*…でもいいでしょう。また、これでもコントラストが弱いと思うなら *In this respect a girl is different: …*とか、*A girl is different here [in this respect]: …*などとするといいでしよう。

★「女の子は結婚しても」は *even after marriage* か、あるいは、*even after she gets married* です。

★「ちょくちょく」は、ニュアンスによっていろいろですが、「ショッちゅう」に近いなら *always* とか *regularly* でしょう。*occasionally; frequently* などもいいでしょう。*now and then* も可能ですが、ちょっと弱いような気がします。

★「実家にやってくる」は *come back home* とか *come home to see her parents* とか、*come back to her parents' home [house]* とかです。

■なかには娘に甘い親もいて結婚式の前に「なにか辛いことがあったらいつでも帰っておいで」と言ったりするらしい。(8802)

★「なかには・・・な親もいて」は、「別に特定の親たちのこと」(some of these parents)を言っているのではなく「こういう親もいる」という意味ですから *some parents* です。

★「娘に甘い・・・」は非常に難しい。ほとんどの場合 *case by case* で考える必要があります。たとえば、「考えが甘い・甘すぎる」という場合は *over-optimistic* を使いますし、「自分に甘い・自己中心的」という場合には *self-indulgent* を使います。ですからここは *indulgent* でもいいとおもいますが、「常に娘の気持ち・都合を優先させる」という感じなら *be prejudiced in their daughters' favor* とか、「甘やかす」という意味にとるなら *spoil* でしょうし、いわゆる「親バカ」で「溺愛する」という意味でしたら *dote* という動詞を使って *dote much on their daughters* とすることになります。そして、この「甘い」は「・・・と言うぐらい甘い」と考えると *are ... enough to say...* であり、「あまりあまくて・・・なほどだ」と考えると *are so ... that ...* などで処理することになります。他に、辞書には「甘い」に *permissive* も出ていますが、これは、たとえば、夜遅く帰ってきてもいい、というような場合に使う言葉ですから、ここでは無理です。

★「結婚式の前に」は「娘」に *their daughters* を使うなら *just before their weddings* ですが、*their daughter* なら *just before her wedding* です。

★「なにか辛いことがあったら」は *If [any time; whenever] things get intolerable [difficult; a bit tough]*など。

- ★ 「いつでも」は(at) any time you like; any time; whenever などです。
- ★ 「帰っておいで」は you may...より、もっと積極的な感じを込めて you can come home のほうがいいです。他には、don't hesitate という意味合いを込めて they urge them to come back home という言い方も出来ます。
- ★ 「するらしい」は it seems とか apparently などでしょう。